

第35回 吉駒学術記念講演会

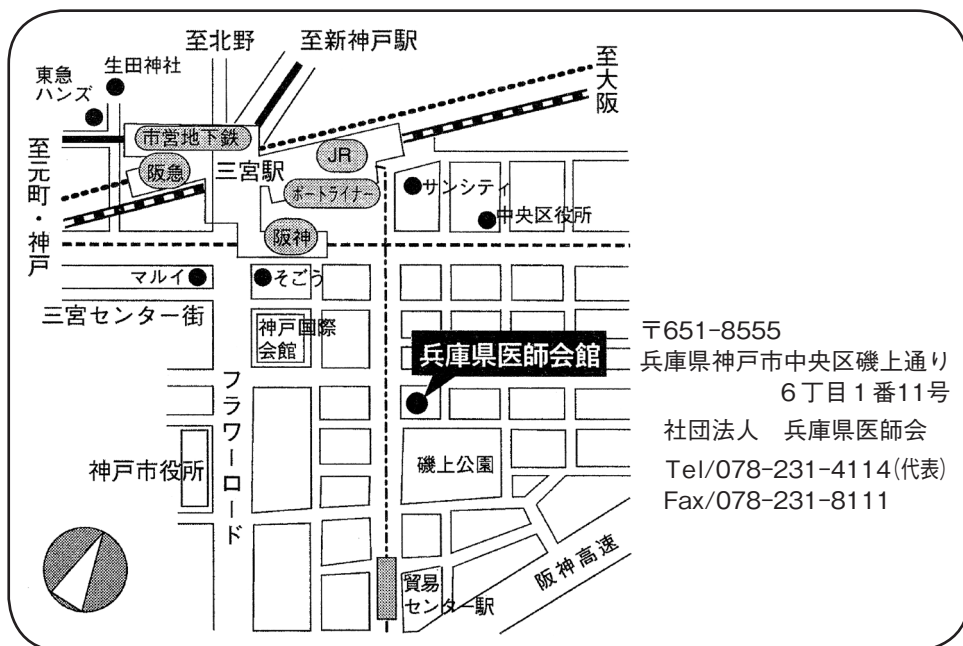
プログラム

☆日 時 平成22年7月24日(土) PM2:00~4:20

☆会 場 兵庫県医師会館 2階「大会議室」

電 話 (078) 231-4114

- 本講演会は、日本小児科学会認定専門医のための研修8単位、並びに日医生涯教育講座2単位(カリキュラムコード1.2)です。
- 参加費として1,000円徴収いたします。



主 催 日本小児科学会兵庫県地方会

後 援 兵 庫 県 医 師 会
神 戸 市 医 師 会

テ ー マ

日本小児科学会兵庫県地方会250回を記念して

1. 日本小児科学会兵庫県地方会250回を記念して

神戸大学 名誉教授

中 村 肇

座 長 兵庫医科大学小児科 教授

谷 澤 隆 邦

2. 小児科学のこれからの方向性を考える

慶應義塾大学医学部小児科学教室 教授

高 橋 孝 雄

座 長 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学 教授

松 尾 雅 文

日本小児科学会兵庫県地方会250回を記念して

神戸大学 名誉教授

中 村 肇

日本小児科学会兵庫県地方会が初めて設立されたのは、明治36年（1903年）10月です。今から遡ること実に107年前の誕生であり、東京帝国大学医学部小児科弘田長教授のもとで小児科学を修められた長澤亘先生のご努力で、全国第4番目の地方会として設立された、一世紀以上の伝統ある学会であります。

長澤亘先生追悼集には、昭和21年12月に兵庫県立医大小児科鈴木靖教授に地方会事務局が移されるまで、長澤小児科医院に置かれていたこと、「設立時の模様」が述べられています。

「地方会設立は、之全く斯道の発達と東京の本会を擁護せんが為に外ならざらし、初めは自分が車夫か看護婦を使い会費を集め、本会に送付し居りし有様でありしが、爾来、学会も漸次隆盛となり、誠に欣快の次第である」と。

戦時中とはいえ、昭和17年には設立40周年記念講演会が神戸市医師会館で開催され、東大・栗山、京大・服部、阪大・笠原、京都府立大・斎藤の諸教授の講演があり、頗る盛会であったとの記載もあります。

終戦を迎えるに当たって、長澤先生は次のように述べられています。「会員は各所に離散し、定期の学会も中止するの止むを得ざるに至れり。誠に痛嘆の極みなり。茲に再び、隠忍努力、各員一致協力、斯道の為、本会を速やかに隆盛に達せしめ、我が日本をして、華麗なる新文化国たらしめんことを熱望して止まず」と。

大先輩の学会活動へのかかる強い情熱により発展してきた本地方会を、我々は引き継がねばと身の引き締まる思いがします。

以来、神戸大学医学部小児科に事務局が置かれ、平田美穂教授、松尾保教授、中村肇教授から今の松尾雅文教授に会長職が引き継がれ、今や会員数は700人以上の多くの小児科医が参加しています。

阪神淡路大震災の1年余り前の平成5年12月4日には、第200回記念祝賀会がオリエンタルホテルで開催されました。その時に調べ得た資料とその後の変遷についてお話しし、250回という一つの節目で、この年が小児医療発展のマイルストーンになれば幸いです。

小児科学のこれからの方向性を考える

慶應義塾大学医学部小児科学教室 教授

高橋孝雄

本講演では、小児科の面目躍如といえる得意分野について私見を述べさせていただきます。小児科学の今後の展開、方向性を考えるきっかけ、一助にして頂ければ幸いです。

世界的な視野において、“すべての子どもたちに幸せを”という人類共通の達成目標を基盤として、国際協力の場が豊富であることが小児医療の特徴と言えます。小児科医であればこそ、WHO、UNICEFなどの国際機構との連携において力を発揮する場面も多いはずで、小児科専門医達成目標の世界標準を確立しようとする最近の試みについてご紹介し、国際活動における小児科学の方向性について考えてみたいと思います。

診療場面において、小児科医が誇るべき優れた臨床能力とは何でしょう。成人医療に比べ軽症例が多く、頼りにされているという実感がない、という批判を最近、若手医師から受けたことがあります。検査と同様に、医師の診断力にも感度（病気の子を見逃さない能力）と特異度（病気でない子を病気でないと正しく見抜く能力）があります。小児科医の存在意義についてこれらの尺度から考えてみたいと思います。

医学研究において、遺伝と環境の相互作用について重要な知見が急速に集積されつつあります。成長・発達の著しい子どもを科学する小児科学にとって、遺伝と環境に関わる研究領域は極めて重要かつ興味深いものです。発達神経学の研究を例に、小児科学における研究の方向性について考えてみたいと思います。